



富士見

富士見小学校校長

共に学び 共に育つ

～対話から創り出す～



9月は例年になく雨天の日が続きましたが、厳しい残暑にはならなかったこともあり、長期休業明けの学校生活を戻しやすかったと感じています。そして、9月7日（月）は、大雨による臨時休校としました。急な対応となりましたが、ご理解ご協力いただきありがとうございました。

学校生活を戻しながら同時進行で今月17日（土）に開催する運動会に向けて準備をしています。高学年で構成している「運動会実行委員会」が中心となり、本校ならではの運動会にしていくために、何をしていくのか、何ができるのかを考えています。

「富士見小らしい」「富士見小だからできる」運動会は、子供たち一人一人が考えたものを対話により構築していくものです。これはAIにはできないことです。学校教育目標の「対話から創り出す」よさを運動会により味わわせたいと考えています。どのような運動会になるのか今から期待いっぱいです。

学校教育目標に向けて（運動会 係活動）

10月17日（土）の運動会に向けて、本格的に子供たちが動き始めました。高学年は7つの係（運営・種目・放送・招集・決勝審判・用具・応援）にわかれて活動していきます。

どの係においても、対話をとおして富士見小ならではの運動会を創り出していきます。応援の係では、赤青黄色ごとに応援団長を中心にして、士気を高める応援を考えはじめています。また、招集の係では、初めての運動会となる1年生のことを考え、どこに集合したらよいかわかりやすく示す方法を考えています。また、用具の係では、プログラムの前後もよく確認して活動しなければならないことにも気づきました。競技以外の姿もどうぞご覧ください。



【自分の命を守る ～備蓄品から考える～ （6年・道徳）】

夏休み中に準備した備蓄品は、命を守ったりつないだりするためのものだということについて、学級みんなで考えました。

最初に、どのようなものを備蓄品としたのかを見合いました。その人に合った食品を選んでいますが、消費期限や量、栄養価など自分では気がつかなかったことを見つけることができました。

一人分の保管できる食品の量は、学校での保管場所等から限られているため、自分にとってより必要なものを精選する必要があることを実感していました。

備蓄品を通して、災害時に何をしておくべきなのか、また、何ができるのか平常時に考えておくことも命を守ることにつながります。





【インクルーシブ教育 ～全クラスで授業～】

インクルーシブとは、「全ての人を包み込み、多様性を認め合う」という意味があります。小田原市では「個性や多様性を認め、伸ばす教育」を掲げており、市の方針に基づき、インクルーシブ教育を推進しているところです。

そこで、9月に「インクルーシブ教育週間」を設定し、全クラスでインクルーシブ教育の授業を行いました。授業は、昨年度から小田原支援学校の先生に模擬授業をしていただいたり、教材についてのアドバイスをいただいたりしていることを生かしながら行いました。

内容は、学年に応じた内容にしています。1年生は、実際にイヤーマフを耳につけて体験したり、着用する理由や着用する人に配慮したりすることを考えました。4年生では、「平等と公平」について考えました。2つを比較しながら考えることで、他者への適切な支援や配慮について学ぶことができました。多様性を認め合うことの素晴らしさをたくさん味わえるようにしたいと思います。



【朝会（人権）～違いを大切に～】

9月16日（水）の朝会は、オンラインで「人権」について考える時間でした。担当の先生がお話に用いたのは、『みえるとか みえないとか』（ヨシタケ シンスケ作）という絵本です。

絵本の主人公は、これまで出会ったことのない人や考えに戸惑いますが、まずは受け入れてみるのが、これから生きていくうえで大切であり、自分を成長させることにつながることに気づきます。

絵本にこのような言葉があります。
～じぶんとちがうひととでもおたがいのくふうやしっぱいやはっけんをおしえあったらきっとみんな「へえ～～」ってなる。～

子供たちには、この「へえ～～」の部分がたくさん見つけて他者と関わってほしいと願っています。この絵本は、図書室にあります。



関わり

✽ P T A 美化作業 ✽

10月3日（土）に保護者・地域・児童、160名ほどが集まり、運動会に向けてグラウンドの草むしりや花壇の整備などをしてくださいました。

9月は雨が続いたせいか、草の伸びが大きく、また生える範囲も広がったのですが、みなさんで協力してきれいにすることができました。児童は6年生が多数参加しました。小学校生活最後の運動会でもあるため、一生懸命に取り組んでいました。

担当のPTA役員の方々、ご準備ありがとうございました。

